

文化・芸術

《名画の扉》

大川美術館展示風景から

アメリカン・シーン
(American Scene) ⅴ
ベン・シャーン作品から



1930年代、世界恐慌に見舞われた米国では、社会の底辺をリアルに描いた画家たちの作品が、「アメリカン・シーン」と呼ばれました。

幼少期に現在のリトアニアから移住したベン・シャーン(1889～1969年)は、そうした画家のひとりとして歩みはじめました。

第2次世界大戦が終わるまでは、創作のかたわら、公共建築の壁画、公共ポスターの制作などに従事していました。

54年3月、南太平洋のビキニ環礁で行われた米国の水爆実験に、

操業中の静岡県焼津市のマグロ漁船「第五福竜丸」が遭遇してしまっています。乗組員23人全員が被ばくしたこの事件をもとに、後にベン・シャーンは連作「ラッキー・ドラゴン」に取り組みました。展示中の一輪の白菊が手向けられた「なぜ?」(1961年)は、そのなかの一点です。

つねに現実には暴力、貧困、差別などの問題を、ゆるぎないヒューマニズムの視点から、深い悲しみとあたたかい優しさをもつて表現した画家でした。